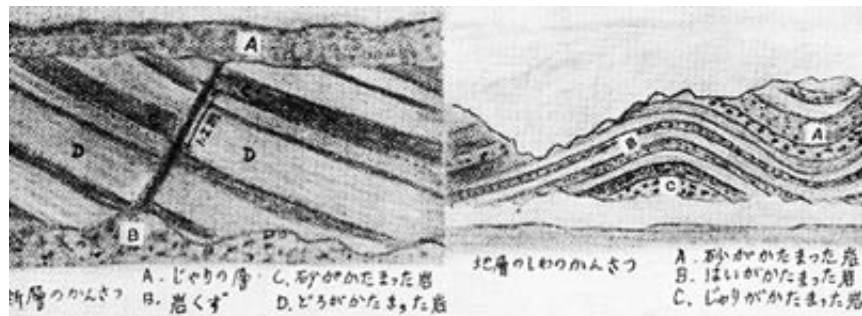




“そうです。このへんははじめはひかく平につづいた所だったのでしょう。それが、今話したような断層ができ、そのためにまわりが落ちてとり残されてきた山だと考えられています。

だからできたころは、上が平でしゃ面の急な山だったと思いますが、長い間に雨や風にけずられて、今では見ただけではそのできかたがわからないほどになってしまったのです。

日本にはこのようにしてできた山が少くありません。近畿地方の鈴鹿山脈などはよい例ですが、日本アルプスといわれる飛騨山脈・木曾山脈・赤石山脈もおもに断層でできたものだと考えられています。

“先生、火山でない山はたいてい断層でできたのですか？”

“いやそうとはかぎりません。山にはもう一つのできかたがあります。それはここから見える山にはありませんが、厚い地層がちぢんでしわになり、そのしわの高まりが山になったものです。世界の みねと いわれるヒマラヤやアルプスなどの大山脈は、地層のしわがたくさん集まって高くなった山です。このように海底につもった厚い地層が、長い間にもり上って高い山になることもあるのです。

